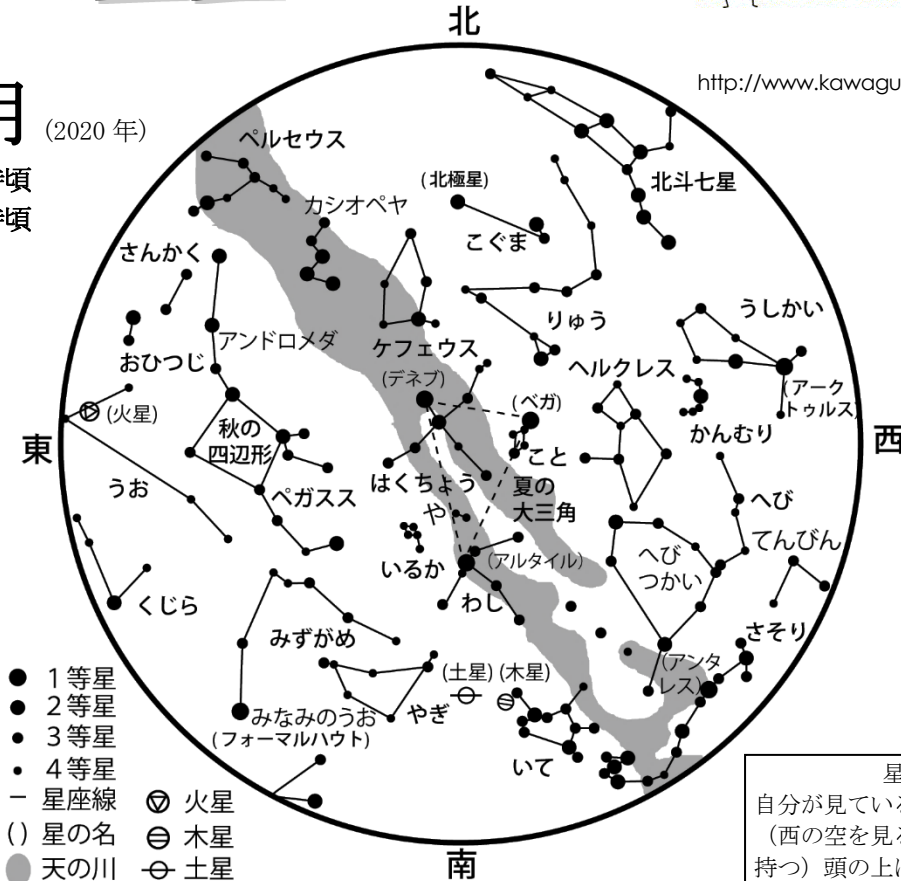


今月の星空



9月 (2020年)

上旬 21 時頃
下旬 20 時頃



星図の見方
自分が見ている方角を下にして、
(西の空を見るときは西を下にして
持つ) 頭の上にかざして見ます。

月 齢 ○満月 2 日、●下弦 10 日、●新月 17 日、●上弦 24 日

惑星情報

金星 明け方 東 (ふたご→かに→しし座 -4 等) 火星 真夜中 南東→南 (うお座 -2→-3 等)
木星 夜のはじめ頃 南→南西 (いて座 -3→-2 等) 土星 夜のはじめ頃 南→南西 (いて座 0 等)

☆夏から秋へ移り変わる星空

朝晩涼しくなり秋らしさが増してくる 9 月。この時期は天頂付近にある夏の大三角を見つけ、そこから東の空、中ほどまで視線を下ろして、秋の夜空の目印「秋の四辺形」までたどってみましょう。その北東側には、明るい星の多いアンドロメダ座やカシオペヤ座があります。また、秋の四辺形の後に続いて東の低空には、赤く輝く火星が昇ってきました。南の空で目立つ木星同様、現在の火星はとても明るく、秋の星座の中ではひととき存在感があります。

☆火星接近中～急激に明るくなる火星～

火星は 10 月 6 日に地球最接近を迎えます。地球の隣の惑星である火星は、地球との位置関係の変化に伴い、地球から見たときの明るさが大きく変化します。最接近時は、9 月 1 日と比べて約 2 倍、8 月 1 日とでは約 4 倍も明るくなります (表の等級差から算出)。この時の火星は木星 (-2.3 等) をしのぐ明るさです。

また、最接近時の火星までの距離は約 6 千万 km です。大きな数字にも見えますが、最遠時が 3 億 km 以上離れていることや同時期の木星 (約 7 億 4 千万 km) に比べると桁違いに近い距離と言えます。ぜひ、最接近を迎える前から観察を始めて、今まさに接近中の火星の変化に注目しましょう。

表 火星の距離と明るさ、視直径の変化

日付	距離 [万 km]	明るさ [等級]	視直径 [秒角]
8/1	9,556	-1.1	14.7
9/1	7,378	-1.8	19.0
最接近 10/6	6,207	-2.6	22.6
11/1	7,008	-2.1	20.0

参照元 天行ナビゲータ/AstroArts

コラム～秋の日暮れと秋分～

この時期、急に秋らしく感じられる一因に、日暮れの早まりが挙げられます。川口市の各月毎の 1 日と月末の日暮れの時刻の差は以下のとおり。7 月…15 分 (19:02→18:47)、8 月…36 分 (18:46→18:10)、9 月…42 分 (18:09→17:27)、10 月…38 分 (17:26→16:48)。

また、22 日の秋分の頃は太陽がほぼ真東から昇り真西に沈みます。昼と夜の長さがほぼ等しくなり、季節の変わり目となります。